2015度日本海洋学会春季評議員会　議事録（案）

日時 2015月3月22日（日）　18：00～20：00

場所 東京海洋大学品川キャンパス生協食堂

出席者 日比谷会長、神田副会長、今脇前監査、秋友、石坂、磯田、磯辺、市川(香)、市川(洋)、植原、植松、江淵、大島、岡、小川、小畑、郭、加藤、蒲生、川合、河野、河宮、轡田、久保川、久保田、倉賀野、根田、齊藤(宏)、須賀、杉崎、武岡、津田、中田、中野、中村、羽角、花輪、原田、広瀬、深澤、本多、升本、松野、三寺、山中、吉川、吉田各評議員（46名）

矢野大会事務局長、小埜前論文賞選考委員長、栗原環境科学賞選考委員長、鈴村海洋環境委員長、速水海洋環境問題研究会会長、門谷沿岸海洋研究会会長、渡邉ブレークスルー研究会会長、東塚幹事、毎日学術フォーラム(小野、平坂)

委任状 伊藤、岩坂、齊藤(誠)、千葉、西岡、古谷、柳 (7名)

開会に先立ち、集会担当幹事から出席者数の確認があり、評議員会細則第3条の規定により、評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。引き続き日比谷会長から発言があり、昨年11月18日に逝去された故須藤英雄名誉会員に黙祷を捧げた。

１．会長挨拶　（日比谷会長）

山形俊男会員のIAPSOアルベールⅠ世メダル受賞が決定した。和田英太郎会員が日本学士院の会員に就任した。学会運営の方針として、大会開催方法の見直し（セッション制の導入、招待講演の実施など）、若手育成、企業との関係強化、関連学会との連携、国際化、刊行物の充実が挙げられた。

２．大会委員長挨拶（横山大会委員長代理矢野大会実行委員会事務局長）

本年度の春季大会について、気象庁と海上保安庁の共同開催であること、評議員会当日までの大会参加者数、発表数、ポスター賞を設けたことが報告された。大会要旨集をUSBメモリで配布した。また、大会開催時のカード決済やコンビニ決済の簡便化の検討を幹事会に依頼した。大会ウェブサイトの学会による一括管理についても検討していただきたい。

３．報告事項

１）会務報告

庶務（小畑幹事）

2014年度の会員異動状況について報告があった。2015年1月現在の会員数は1767名で、1年前に比べて38名減少した。

編集

1. JO（石坂編集委員長）

編集委員および委員長の交代、71巻2 号までの発刊状況についての報告があった。インパクトファクターが1.464であること、昨年8月より課金制度を開始したがこれによる投稿数の減少は見られないこと、3つの特集セクション号の編集作業を進めていることが報告された。

1. 海の研究（市川編集委員長）

編集委員長が交代したこと、2014年度は12編を掲載したこと、発行経費の大幅削減に成功したことが報告された。今後は学部学生や一般市民を対象とした総説、シンポジウム特集号などの掲載を推進したいと考えている。

1. JOSニュースレター（津田編集委員長）

2年間で8号を刊行した。報告などの原稿は順調に集まっているが、トップニュースが不足している。よいニュースやプロジェクトの成果など投稿していただきたい。

研究発表（鈴村幹事）

2014年度秋季大会が長崎地方の会員により開催され、大会終了後に実行委員会から多額のご寄付をいただいた。大会報告はJOSニュースレターに掲載される。2015年度秋季大会は愛媛大学にて開催される予定。

賞選考

1. 学会賞・岡田賞・宇田賞（日比谷会長安田前委員長代理）

選考過程および選考結果について報告があった。

1. 日高論文賞・奨励論文賞（小埜前委員長）

選考過程および選考結果について報告があった。選考結果および推薦状はNLに掲載している。

1. 環境科学賞（栗原前委員長）

選考過程および選考結果について報告があった。

候補者の推薦が不足しているため、募集要項の改定などを検討していることが報告され、評議員からの積極的な推薦をお願いしたいとの依頼があった。

選挙管理（山中幹事）

資料に基づき、役員選挙、各賞可否投票、各賞選考委員会選挙の結果について報告があった。

広報委員会（原田委員長）

さらなるアウトリーチ活動充実のため、広報委員会を設置したことが報告された。

海洋環境委員会（鈴村委員長）

新委員を検討していること、青い海助成事業を通年応募可能とすることが報告された。

　　海洋環境問題研究会（速水委員長）

現在の会員数27名。研究会の会合、シンポジウムの開催、ウェブサイトでの情報公開などを行ったことが報告された。次期会長については、後日メール審議に諮る予定。

沿岸海洋研究会（門谷会長）

現在の個人会員数は342名。シンポジウムを開催したこと、機器メーカーと研究者の双方による話題提供を行ったことが報告された。

西南支部（山城支部長代理中村西南支部事務担当幹事）

ニュースレターの発行、ウェブサイトの更新、シンポジウムの開催などの活動を行ったことが報告された。また、2015-16年度役員を決定した。

　　教育問題研究会（轡田研究会会長）

現在会員数43名。資料に基づき、2014年度の活動および2015年度の活動計画について報告があった。

ブレークスルー研究会（渡邉研究会会長）

現在の会員数は12名。大型研究計画インプットのためのシンポジウムを開催したことが報告された。他学会との連携強化を進めている。

　　大会運営検討WG（鈴村幹事）

アンケートなどをもとに、提案書を作成した。WGの活動は今回で終了する。

提案についての説明の後、以下の質疑応答があった。

ａ．シンポジウム主催者に会場代などの費用を請求するという提案については反対という意見があり（津田幹事）、今後幹事会で検討していくと日比谷会長が回答した。

ｂ．資料に「会員 (LOC) のボランテアによる運営は負担が大きく、結果として会員の本来の研究活動を阻害する要因ともなっている」とあるが、実際に会員から届いた意見なのかという質問があり（深澤評議員）、鈴村幹事が会員アンケートで寄せられた意見であると回答した。

海洋観測ガイドライン編集委員会（河野委員長）

5名を加えて編集委員会を発足した。

本年9月公開を目指している。

２）学界関連報告

学界動向（神田副会長）

日本学術会議、ICSU、IUGGなどの学界動向について報告があった。詳細は3月のJOSニュースレターに詳細を掲載している。加えて、花輪評議員から、次の大型研究計画マスタープラン策定に向けて、地球惑星分科会のWG活動が開始されることが紹介され、他学会との協力提案を検討すべきとの意見が出された。また、石坂幹事から、気象学会では航空機に関する提案がなされることが紹介された。

日本地球惑星科学連合（原田幹事）

2015年度の連合大会開催予定について報告があった。AGUとの共同開催に向けて国際化を推進している。

　　水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

震災関連のフォーラムが11月に開催され、会員による発表があった。

４．審議事項

１）幹事の委嘱について（日比谷会長）

伊藤会員、齊藤（宏）会員、東塚会員の3名が推薦され、承認した。

２）教育問題研究会会長の交代について（小畑幹事）

岸会員から轡田会員に交代することを承認した。

３）2014年度事業報告並びに決算報告について（小畑・河野幹事）

2014年度の事業報告と決算報告について説明があった。印刷物の刊行、大会開催、名簿の発行、各賞の選考などについて説明があった。JOの掲載料、Springerからの印税、大会戻り金による収入があった。

４）2014年度監査報告について（今脇監査）

2014年3月5日、今脇、小池の両監査により、学会事務局において2014年度監査が実施され、当該年度の会計処理が適切に行われていたこと、残高を確認した旨報告があった。監査報告を踏まえ、2014年度事業報告、決算報告、監査報告が承認された。

５）2015年度事業計画並びに予算案について（小畑・河野幹事）

　資料に基づき、事業計画を確認し、承認した。JO掲載料、Springer印税による収入が見込まれる。支出については、新たに広報委員会経費15万円を計上している。

６）受賞記念講演座長について（小畑幹事）

　座長が推薦され、原案通り承認された。

７）2016年度以降の若手海外渡航援助について（神田副会長）

海洋未来技術研究会の解散に際していただいた寄付金により、宇田賞メダルの作成および2015年度の若手渡航援助事業を行うことが報告された。2016年度以降は、学会の事業として若手海外渡航援助を継続していくことが提案され、承認された。

８）2015年度通常総会議事次第案について（小畑幹事）

議事次第案を確認し、承認した。

９）2016年度春季・秋季大会の開催について（鈴村幹事）

2016年度春季・秋季大会の開催について、原案通り承認した。

１０）その他

日比谷会長

三賞選考委員会委員について、分野のバランスをとるため、久保田会員、松野会員を追加したいとの提案があり、承認された。

５．その他

植松会員

IODEの議長選挙があり、道田会員が共同議長に選出されたことが報告された。

　武岡次期大会実行委員長

　　秋季大会に向けての挨拶があった。愛媛大学での開催は4回目である。

愛媛県、松山市からの補助金交付の条件であるため、大会終了後に実行委員会から学会へ余剰金を寄付することは難しいとの発言があった。